

# 関節リウマチ

**早期ならば  
大防風湯が  
症状を和らげ  
食欲不振も改善**



## CASE STUDY

16

大阪府に住む63歳の主婦です。手指の関節に痛みを感じたのは、6年ほど前のことでした。強い痛みではなかったので放置。でも、2年後に関節が腫れてきて心配になりました。

**リウマチの症状だけでなく、だるさや疲れの解消にも効果**  
大阪府在住の主婦A子さん(63)が、手の指の関節に痛みを感じるようになったのは、今から6年ほど前。当時はそれほど強い痛みではなかったため、治療も受けずにそのまま放置していました。しかし、その2年後、関節が腫れてきて痛みも強くなつたため、香川クリニックを受診。診察と血液検査(リウマトイド因子など)、レントゲン検査の結果、初期の関節リウマチとわかりました。

病気の進行を抑えるための治療として、効き目が穏やかなタイプの抗リウマチ薬と大防風湯のどちらを使いたいか聞いたところ、A子さんは大防風湯を希望。また、痛みを軽減するために鎮痛薬の投与も考えましたが、A子さんが「飲まなくても大丈夫」と話したため、処方しない様子を見ることになりました。

大防風湯を飲み始めて1カ月後の診察で、「痛みや腫れが軽くなつた」とA子さん。3カ月後の血液検査では、リウマトイド因子は陽性であったものの、数値が以前より改善していました。

A子さんはその後も大防風湯の服用を続けていますが、「日中のだるさや疲れもなくなつたし、風邪も引かなくなつた」と喜んでいます。

**有効性の調査で  
氣虚と血虚の  
タイプによく効く  
ことがわかつた**  
この調査では、漢方の考え方のひとつ「気血水」(11参照)の中、「気」と「血」にも注目。体のエネルギーが不足していて、だるさ、疲れやすさ、食欲不振、などの症状も出ます。それらも改善してくれる漢方薬には、期待す

香川院長は昨年、早期の関節リウマチに対する大防風湯の有効性を調べています(下図参照)。早期の関節リウマチの人で鎮痛薬だけ飲んでいる10人に大防風湯を服用してもらったところ(期間は約1~4年)、6人の症状が改善。残りの4人は症状が変わらず、悪化した人は一人もいませんでした。

**有効性の調査で  
氣虚と血虚の  
タイプによく効く  
ことがわかつた**

下痢などが表れている状態の「気虚」と、血流が滞つていて、不眠、眼精疲労、めまい、皮膚の乾燥や荒れなどが表れている状態の「血虚」について調べたところ、効果のあった6人とも気虚や血虚の状態が強く、治療後は気虚や血虚による症状も改善。反対に、効果のなかった4人はもともと気虚や血虚の状態が弱く、治療後もその状態は変わりありませんでした。

「大防風湯は気虚や血虚の関節リウマチの患者さんにいいといわれていますが、まさにそれが裏付けられたわけです。関節リウマチは全身の病気なので、関節だけでなく、全身倦怠感や微熱、食欲不振などの症状も出ます。それらも改善してくれる漢方薬には、期待す

香川院長は関節リウマチ以外の関節の病気や膠原病に対しても、漢方薬をよく使っています。  
たとえば、神経痛や変形性関節症による関節の痛みをとるためには桂枝加朮附湯、シエーゲレン症候群で見られる口の渴きを改善するためには白虎加人参湯などです。膠原病全般に見られるレイノー現象(指先などが冷たく白くなる)には、当帰四逆加吳茱萸生姜湯を用いることもあります。さらに、全身性エリテマトーデスには十全大補湯を単独で使ったり、ステロイド薬と併用

したりすることもあります。  
また、ステロイド薬を減量したりときは柴芩湯が役立つこともあります。

「ステロイド薬は膠原病の治療に欠かせない薬ですが、ムーンフェース、肥満など女性が気にする『目に見える』副作用が多いことから、減量を切望する女性患者が少なくありません。病状が安定している、ステロイド薬を減らしても問題ないケースでは、リバンドや離脱症状を起こさず減量がスムーズに行くよう、柴芩湯を用いることがあります。20ミリグラムを10~15ミリグラムにしたりといふ感じですが、順調に減量が望めたケースもあります」

関節リウマチは膠原病の一種で、自分の関節を自分の免疫細胞が攻撃する自己免疫疾患です。女性に多く、年配の人だけでなく、若い人もかかる病気です。関節リウマチに関しては、近年、抗リウマチ薬のメトトレキサートや、生物学的製剤(リウマチの発症や炎症にかかる物質だけをピンポイントで抑える、バイオテクノロジーの力を使って作った薬のインフリキシマブ、エタネルセプトなどの強力な薬剤が使われるようになりました。これまで治らなかつた重い症状が劇的に改善されるようになりました。

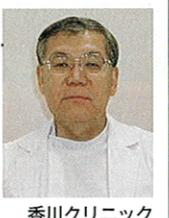
香川クリニック(大阪府寝屋川市)の香川英生院長は、次のように話します。「ただ、早期の関節リウマチで関節の破壊がほとんどない患者さんは、副作用の心配もある作用の強い抗リウマチ薬や、高価で何回もの注射が必要な生物学的製剤はほとんど使用しません。また、そのような患者さんは強い薬よりも、

効果はマイルドだけど副作用が少ない薬を望れます」  
実際、レントゲンや血液検査などで早期の関節リウマチと診断された患者には、香川院長は漢方薬の大防風湯と、作用の弱いタイプの抗リウマチ薬(オーケルなど)のどちらかを選んでもらい、処方しているといいます。

効果はマイルドだけど副作用が少ない薬を望れます」  
そもそも、香川院長が大防風湯を使うようになったのは、患者さんからの要望が多かったためだと思います。

かつて在籍していた大学病院での抗リウマチ薬(オーケルなど)のどちらかを選んでもらい、処方をしたりなど、最先端の治療をすることが多く、漢方治療はほとんどしていませんでした。開業医となつて関節リウマチという病気と「共生している」患者をたくさん診ているうちに、漢方治療の必要性に気づいたのだそうです。

「患者さんは、鎮痛薬や抗リウマチ薬は効き目も強いが、副作用も強いとのイメージを持っています。実際に副作用に困っている人もいます。罹歴が長い患者さんは、それ以外の、早期で病状が安定している患者さんには漢方薬をテロイド薬を使わざるをえませんが、それ以外の、早期で病状が安定している患者さんには漢方薬を薦めることが多いですね」



香川英生  
院長

1959年、大阪府生まれ。84年、関西医科大学卒。大阪赤十字病院内科、関西医科大学第一内科を経て、2000年から現職。関西医科大学第一内科非常勤講師も務める。